

令和6年度千葉県薬事審議会 議事概要

I 日時

令和7年3月13日（木）13時30分から14時35分まで

II 場所

Web開催（Zoom）

III 出席者

（1）委員（総数13名中12名）

今井委員、川名委員、小椋委員（会長）、眞鍋委員、松下委員、
齊藤委員、中村委員、飯塚委員、平口委員、望田委員、佐藤委員、山口委員
（順不同）

（2）事務局職員

健康福祉部保健医療担当部長 鈴木 貴士、健康福祉部次長（兼）健康危機対策監 出浦 和彦
（薬務課）

課長 長峯 文恵、副課長 深澤 裕志、副課長 長谷川 貴志、副課長
植野 美保、企画指導班長 関根 広幸、麻薬指導班長 篠原 靖浩、
監視指導班長 高橋 和長、審査指導班長 古市 欣士、主査 東 徳子

IV 議事概要

（1）協議事項

○令和7年度千葉県薬事監視指導事業計画（案）について

資料（p1から2）、参考資料（p1から3）により事務局から説明
《質疑》
特になし

→「令和7年度千葉県薬事監視指導事業計画（案）について」は事務局案どおり承認された。

（2）報告事項

○薬事審議会薬物小委員会における審議結果について

資料（p3）、参考資料（p4から26）により事務局から説明
《質疑》
特になし

○地域連携薬局及び専門医療機関連携薬局の認定状況について

資料（p4から7）により事務局から説明

《質疑》

特になし

以上で議事を終えた。

(3) その他

○医療計画（薬務関係）について

前医療計画の指標達成状況と現計画について事務局から説明

《質疑》

(委 員)

先ほどの説明で話しがあったように、病院薬剤師の不足がある。前年の会議でも提示したと思うが、実際は、人材確保のところでは千葉県における人口10万対の薬剤師の数は260の全国平均を少し下回った形になるが、やはり病院薬剤師に関してはかなり減っているところである。

日本病院薬剤師会が出した薬剤師の偏在指標の資料を提示してよろしいか。

(事務局)

提示をお願いする。

(委 員)

千葉県の中で県北の方においても、偏在指標が1を切っている形になるが、やはり県南に行くほど数が少ないという実態があり、実際的には安房、鴨川では、病院に1人しかいない薬剤師の方が辞めてしまって薬剤師が0になる状況があり、近隣病院が派遣をしているという事例もある。

比較的千葉県は、薬学部がたくさんあるという認識があると思う。さらにまた、薬学部が県内にできたという話もあるが、首都圏に近いので、なかなか千葉県の中に薬剤師が留まる率もそう高い方ではないと認識している。

病院薬剤師会としては令和5年度、6年度と、千葉県地域医療介護総合確保基金を活用した復職支援という事業と、学生への周知という活動をさせてもらっている。今後やはり、千葉県の皆様に認識いただきたいのは病院も薬局もそうだが、全体平均すると、もしかしたら全国平均をちょっと下回る値という認識かもしれないが、地域偏在が存在しており、地域によって薬剤師が足りなくなってしまうところがある。千葉県としてはこのようなことに対して地域偏在の解消というところも、今後、視点としてやっていただけるとありがたい。今後も継続していきたいと思うので、力添えをお願いしたい。

(事務局)

委員の意見のとおり薬局に従事する薬剤師数は、全国平均と比べてほぼ同水準であるが、医療機関に従事する薬剤師数は全国平均を下回っているということもあるので、そういった業態間の偏在や委員から説明があった地域間の偏在もあると

いうことは認識しているところである。

そのため、医療機関に従事する薬剤師については、病院薬剤師会とも協力しながら病院薬剤師の確保について、支援施策を進めていきたいと考えている。

○医薬品医療機器等法の一部を改正する法律案の概要について

資料（p 27から30）により事務局から説明

《質疑》

（委員）

健康サポート薬局の今後のあり方というのはどういうふうになるのか教えていただきたい。分かればよいが、資料に書かれてるとおり健康サポート等薬局の機能や、健康サポートに関する取り組みの質の確保のために、健康増進支援薬局として認定する制度を導入する、ということで健康サポート薬局というのは今後は、健康増進支援薬局に吸収されてなくなっていくと考えてよいのか。

（事務局）

健康サポート薬局としては制度自体は今後なくなっていくが、名称としてはそのまま使える。今後は、新しく健康増進支援薬局として認定する制度の導入に伴い、健康サポート薬局というのは、届出など現状の制度はなくなるけれども、名称としては残るというような形で聞いている。

（委員）

整理されていくということか。

（事務局）

そうである。